

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における

日本の食文化の発信に係る関係省庁等連絡会議（第6回）

議事概要

日 時：2021年9月16日（木）15:00 - 15:35

場 所：オンライン

出席者：

（議長）

東京オリンピック・パラリンピック大会担当大臣

丸川 珠代

（副議長）

農林水産省大臣官房総括審議官（新産業・食品産業）

水野 政義

（構成員）

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会

推進本部事務局企画・推進統括官

勝野 美江

消費者庁政策立案総括審議官

村井 正親

復興庁統括官

林 俊行

文化庁参事官（食文化担当）

野添 剛司 ※代理出席

厚生労働省食品監視安全課長

三木 朗 ※代理出席

農林水産省農産局長

平形 雄策

農林水産省畜産局長

森 健

林野庁経営課長

猪上 誠介 ※代理出席

水産庁漁政部企画課長

河村 仁 ※代理出席

経済産業省商務・サービス政策統括調整官

田中 一成 ※代理出席

東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長

小池 潔 ※代理出席

東京都産業労働局次長

坂本 雅彦 ※代理出席

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

副事務総長

坂上 優介

《構成員変更》

○組織改編のため、副議長が農林水産省食料産業局長から農林水産省大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）へ、構成員が消費者庁審議官から消費者庁政策立案総括審議官へ、農林水産省生産局長が農林水産省農産局長へ、農林水産省政策統括官が農林水産省畜産局長へそれぞれ変更された。

代表して、水野副議長より「東京大会が無事終了した。中心となって対応された組織委員会、オリパラ事務局をはじめとする皆様におかれては、大変お疲れ様でした。日本の食文化発信についても、この会議の立ち上げから5年、組織委員会及び各府省の協力のおかげで取組を進めてこられた。本日はこれまでの成果報告を関係各所からお願いしたい。」と挨拶。

《議事》

〈東京大会における飲食提供について（成果報告）〉

○組織委員会より、東京大会における選手村等での飲食提供や大会を通じた食文化の発信について説明。

〈東京大会における食文化発信の取組について〉

○内閣官房より、「資料1 2020 東京大会における日本の食文化発信について」に基づき説明。

〈東京大会における食品ロス削減について〉

○消費者庁より、東京大会における食品ロスの実態把握に関する情報共有の申し入れについて発言。

〈復興庁による被災地産食材のPRに関する取組について〉

○復興庁より、東京大会における復興庁による被災地産食材のPRに関する取組について説明。

〈東京大会を契機とした持続可能性に配慮した生産の取組について〉

○農林水産省より、「資料2 東京大会を契機とした持続可能性に配慮した生産の取組について」に基づき説明。

《まとめ》

【丸川大臣】

9月5日、東京大会は、選手の皆さんの大活躍のもとに、東京パラリンピック競技大会の閉幕をもって無事終了した。コロナ禍という大変厳しい状況のなかで開催された東京大会だが、選手が自己の限界に挑戦し、躍動する姿を見ることができた。

まずは、選手への食事の提供に万全のサポート体制で臨み徹していただいた組織委員会に対し感謝したい。併せて日本の食文化発信にご尽力いただいた関係省庁の皆様のお力添えに御礼申し上げる。

5年前の2016年12月に開催した第2回の本会議では、まだ組織委員会での調達基準案の策定前の段階だった。東京大会で国産の農水産物をできる限り多く提供できるように認証の取得を急ぐといったことを議論していたことを当時一度目の大臣だったと思うがよく記憶をしている。農林水産省でも生産者の認証取得に積極的に支援をいただきたいということをお願いして、実際に成果があがってきているということを感じている。また、関係省庁にも連携して食文化の発信に努めていた

だきたいといったことをお願いしてきた。今回、選手村では多くの選手の皆さん、関係者の皆さんが自ら発信してくださり、非常に意義のある提供だったのではないかと思う。これが東京大会のレガシーとなるように、これから私どもとしても取組を深めていかなければならない部分もあろうかと思う。

先程報告いただいたが、選手村の食堂で国産食材を活用したメニューが提供され、特にカジュアルダイニングでは生鮮食材を中心に認証食材かつ国産食材を活用しながら日本食を提供、また、大会史上初となる産地表示も実施され、選手に対して情報発信を積極的に実施することができた。その思いが届いて、選手たちの発信があったことをうれしく思う。

また、復興五輪という観点からも、被災地産食材の活用にも力を入れていただき、福島の桃が評判になるなど関係者の皆様には大変ご尽力いただいたことに改めて感謝申し上げます。

一方で、スタッフ向けの弁当廃棄についても大きな問題となった。これを受けてスピーディーに対応いただき、フードバンクとの連携を行っていただくなど、今後のレガシーとなるような取組にもチャレンジいただけたものと思ひ、臨機応変な、そして素早い対応に感謝申し上げます。

東京大会は閉幕となったが、組織委員会の皆様には、今回の取組をしっかりとレポートとしてまとめていただき、パリ大会への引継ぎを確実に実施いただくようお願いしたい。また、大会のレガシーについて、関係省庁の皆様には、本大会がもたらした成果が出て終わることはなく、東京大会はあくまでステップの一つにすぎない。日本の食というのは、海外からお越しのお客様、また日本に対し憧れを持つ皆様の中で非常に大きな位置を占めている。さらに拡大につなげていくために取組を加速していただく決意を新たにさせていただきたいと思う。